

えいらい

No.41

令和 元年 10月発行

発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

秋号
2019



〒790-0067 愛媛県松山市大手町2丁目6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

令和時代の松山市民病院

副院長 柚木 茂



2019年5月より年号が令和になり、時代が大きく変わろうとしています。10月からは消費税が10%に増税され、2020年度の診療報酬改定では、高額薬剤の取り扱いの見直しなどが検討項目として挙がっています。これからの令和の時代は決してバラ色ではないかもしれませんが、しかし、いかなる時も松山市民病院は市民のために存在し、安心して、高度急性期医療が提供できる病院になっていかなければなりません。

今年のスローガンは「地域とともに歩む医療—キーワードは環境、機能、活動—」です。病院の環境と機能を整え、地域に向かって活動するために、7月には病院機能評価(3rdG:Ver.2.0)の訪問審査を受けました。各部署一丸となって病院の改革、改善に取り組み、一定の評価を得ることができました。

訪問審査最終日には3名の看護師が認定看護師試験に合格し、審査委員とともに祝福しました。専門的な資格を持つスタッフがチームを組んで患者さんの治療を担当する—今後の病院の方向性を示す3名の合格となりました。

当院は松山医療圏の救急輪番病院として、地域の救急医療を支える重要な役割を果たしています。最近、救急車の搬送台数が増加傾向にあり、緊急入院する患者さんも増えています。増加する救急患者さんが安心して、適切な治療が受けられるよう、病院全体で取り組んでいきたいと思っています。

また、基幹病院の一つとして、癌などの先進的な診断・治療にも力を入れています。今年2月に新しい鏡視下手術の

機材を導入し、今後ますます増える鏡視下手術に対応する体制が整いました。消化器外科・呼吸器外科・泌尿器科の手術中に、脈管の走行や血管内の血流状態が把握できるようになったため、より安全で精緻な手術が可能となっています。さらに、今年中には消化器内視鏡システムを一新して、患者さんの負担を軽減し、より正確な内視鏡診断ができるよう整備する予定です。

抗癌剤治療は遺伝子解析が必須になり、倫理問題も含めた対策を講じなければなりません。この問題に関しては四国がんセンターと連携をとりながら、遺伝子診断・治療にも対応してまいります。

2024年から医師の働き方改革が実施される見込みで、医療従事者を含む全ての労働者の時間外労働に規制がかかります。より効率的で機能的な仕事の進め方を築き上げなければなりません。一人ひとりの努力だけではなく、患者さん目線に立った仕事の整理が必要で、それが働き方改革の始まりになると考えています。

人口問題では、団塊の世代が後期高齢者(75歳以上)になる2025年問題から、85歳以上の人口が高齢者の3割近くを占め、現役世代1.5人が高齢者1人を支えるようになる、2040年問題が話題になってきました。

そのような令和の時代にも近隣の医療機関と連携しながら、地域医療を支え、市民による市民のための病院として、たゆみない改善を続けていく所存です。今後とも、皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。